

## コミュニティ・スクール2年目を迎えました

子どもたちを取り巻く環境や学校が抱える課題は複雑化・多様化しています。課題の解決と子どもたちの豊かな成長のためには「地域総がかり」での教育の実現が不可欠であることから、野々市市では昨年度（令和4年度）よりコミュニティ・スクールの取り組みを始め、本年度は2年目を迎えました。

コミュニティ・スクールとは、地域住民と学校が目標やビジョンを共有し、一体となって子どもたちを育てる制度で、この仕組みによって保護者や地域の皆さんが学校運営に参画しやすくなります。

|    |  |
|----|--|
| 目的 | 未来の野々市を担う子どもたちの健やかな成長を目指しています。   |
| 内容 | 家庭・地域・学校が連携、協力し「地域とともにある学校づくり」を進めます。   |
| 組織 | <p>学校運営協議会（以下：協議会）…学校と地域が課題や情報等を共有し、意見交換等を行いながら課題解決に向けた意思決定をしていきます。協議会は学校ごとに設置され、委員は校長・教頭および市教育委員会から委嘱された地域住民（野々市中は3人）で構成されます。</p> <p>地域学校協働本部（以下:本部）…地域と学校が目標を共有して行う「連携・協働」型の地域学校協働活動を推進する拠点として市役所（生涯学習課内）に設置しています。</p> |
| 具体 | 協議会において、熟議し、学校の教育活動等において新たに地域住民の参画（ゲストティーチャーなど）が必要となった場合などに、必要に応じて本部に支援の依頼・相談をします。その際、本部が「地域学校協働活動ボランティア人材バンク」の登録者に連絡し、学校へ派遣します。   |

### △ コミュニティスクール 令和4年度の活動は？ △

#### 1. 学校運営協議会を各学期に行い、貴重なご意見をいただきました、※一部抜粋です

生徒の悩みに対してどううごいているのか

→ 1年生に対しては全員がカウンセラーとの個人面談を行った

悩み相談は順番待ちの状態で、悩み相談の窓口を広げて対応している

パソコン、携帯等の使用などの指導は適切なのか

→ 学校では携帯の持ち込みは認めていない

使う時間よりも使い方が大事、親子の話し合いが重要である

ほかにも、不登校生について、あいさつについて、自問清掃についてなどのさまざまな質問・意見があり、学校運営に生かしてきています。

#### 2. 職場体験の活動先を開拓しました

コロナ過からようやく落ち着いてきましたが、生徒の活動も少しずつ活発化しています。2年生では4年ぶりに実施される職場体験にむけて準備を行ってきました。現在、野々市市内外の90近くもの店舗・事業所の賛同・協力をいただきまして、生徒が活動できる必要数が確保できています。

#### 3. その他

夏休み中の中庭の整備や地域の団体と部活動生徒の交流についても連絡調整をおこないました。